

大学図書館が実施する「学士課程学生による研究」に対する支援の位置づけ ：北米の研究大学図書館を対象としたインタビュー調査より

新見慎子（東京大学農学生命科学図書館）

niimi@lib.a.u-tokyo.ac.jp

1. 背景と目的

高等教育において、アメリカの大学で生じた「学士課程学生による研究（undergraduate research）」¹⁾という概念とそれを実現するための取り組みが注目され、関連研究も行われている²⁾。「学士課程学生による研究」とは、授業の内外において学生が様々な形態によって取り組む研究や探究のための活動とそれを通じた学習を示す概念である。さらに、高等教育改革の手段としても位置づけられている。たとえば、カーネギー教育振興財団のボイヤー委員会は、研究大学の特性を生かした学士課程教育の改善を提言した『学士課程教育の再編：アメリカの研究大学のための青写真』³⁾において、研究に基づく学習を推奨していた。

「学士課程学生による研究」の定義は、研究者によって様々な見解があり一様ではない。しかし、Huら⁴⁾も指摘しているように、アメリカの学士課程学生研究協議会による定義が、最も包括的な定義であるといえる。学士課程学生研究協議会では、「学士課程学生による研究」を、“学士課程学生によって実施され、専門分野に対して独自の知的もしくは創造的な貢献をする探究や調査”⁵⁾と定義している。

大学図書館においても、「学士課程学生による研究」を支援するサービスに関心が持たれるようになっており、図書館情報学分野でもテーマとして取り上げる研究が発表されるようになりつつある。著者⁶⁾は、北米の研究大学図書館が実施する「学士課程学生による研究」を支援するためのサービスの実態を明らかにすることを目的として、2014年10月から2015年3月にかけて、アメリカとカナダの研究大学図書館を対象とする質問紙調査を実施した。133

館中30館より回答があり、その結果より、①学生による研究を促進する授業は30館、②オナーズ・プログラムまたはオナーズ学生は28館、③学士課程学生研究プログラムは19館、④学生の研究成果の発表会は16館⁷⁾、⑤学生の研究論文誌は9館⁸⁾、⑥図書館資源を活用した学生の研究成果の表彰は14館において支援・関与が行われていることが分かった。

本研究は、先述の質問紙調査のフォローアップとして、1)北米の研究大学図書館において「学士課程学生による研究」に対する支援がどのような位置づけのもとで実施されているのか、2)それらはどのように大学全体の使命や戦略等と結びついているのか、あるいは大学図書館がそれらと結びつけて考えているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 方法

調査方法は、インタビュー調査とした。質問紙調査においてフォローアップインタビューの対応が可能と回答があった16館の図書館員に対して、質問事項を提示したうえで、訪問ないしメールによるインタビュー調査の依頼をメールにて行った。その結果、6館の図書館員に対してインタビューを行うことができた。

訪問によるインタビューは2015年5月に2館で行い、メールによるインタビューは2015年3月から4月にかけて4館で行った。インタビュー調査の回答者・手段・実施日/回答日は、第1表の通りである。また、各館における質問紙調査の回答時点での「学士課程学生による研究」を支援するためのサービスの実施状況は、第2表の通りである。

質問事項は大きく分けると、(1)「学士課程

学生による研究」に対する支援は、自館において重要かつ価値あるサービスと捉えられているか、(2)「学士課程学生による研究」の促進は大学の使命または戦略計画と関連づけられているか、(3)その他(質問紙調査の補足質問)の3点である。また、可能であれば関連文書等の提供・紹介も求めた。なお、全ての回答者より大学名・回答者名などの掲載許可を得た。

本研究では、(1)と(2)の結果と関連文書等の内容についてまとめる。

3. 結果

3.1 カリフォルニア大学バークレー校図書館

「学士課程学生による研究」は、図書館と大学の双方において大変重要な目標となっており、図書館は、多くの情報資源や貴重書等の一次資料、学内に複数ある専門的な図書館でのサービスを提供することによって貢献しているという回答があった。また、同校が最初に開始した図書館資源を活用した学生の研究成果の表彰も、その一環として位置づけられている。

さらに、現在の学長が学士課程学生の経験(undergraduate experience)を同校の主要な目標の1つとして定めたこともあり、キャンパス内において学士課程学生の活動や授業、生活等が最優先事項の1つになったという説明もあった。

3.2 ニューヨーク州立大学バッファロー校図書館

「学士課程学生による研究」に対する支援は図書館にとって欠くことのできないサービスであり、図書館資源やサービス、専門家が授業やプログラムのなかに統合されているという回答があった。

また同校では、「学士課程学生による研究」を大学での学生の経験に組み込むことに力を入れており、2016年秋から開始される新たな一般教育プログラムでは、全ての学士課程学生が情報リテラシーや研究等のコンピテンシーを身に着けるための試みが行われ⁹⁾、図書館も関与する予定であるという説明があった。

3.3 プリンストン大学図書館

同大には多くの博士課程プログラムに所属する大学院生がいるが、以前よりリベラルアーツ分野・工学分野における学士課程教育にも焦点を当てており、また、全ての学士課程学生に対して論文(senior thesis)の執筆を必須とし、図書館では、学生に対する対面やオンラインでの助言、senior thesisの機関リポジトリへの掲載等を行っている、という回答があった。

回答者より紹介された大学ウェブサイトの概要¹⁰⁾では、同大学は学士課程教育に力を入れているという、研究大学でも独特な存在であると述べられている。またこの点は、大学のミッションステートメントにも記載されている。

3.4 ルイビル大学図書館

「学士課程学生による研究」に対する支援は、図書館にとって重要かつ価値あるサービスであると考えているが、明示的なものにはなっていないという回答があった。

さらに、以前は大学の戦略計画のなかで「学士課程学生による研究」が触れられていたが、現在は無くなっているという説明もあった。

3.5 トロント大学図書館

「学士課程学生による研究」に対する支援は、図書館にとって重要かつ価値あるサービスであり、図書館の戦略計画の文書(2013-2018年)のなかでも取り上げられているとの回答があった。なお、当初の戦略計画の文書では、「革新的な探求(innovative inquiry)」の項目において研究発表会が紹介されており、2016年夏に改定された版では、図書館資源を活用した学生の研究成果の表彰、学士課程学生を含む学生の研究成果を掲載する雑誌に関する学内フォーラムの開催が紹介されている¹¹⁾。

また、大学の長期戦略計画の文書においても「学士課程学生による研究」が取り上げられており、2014年には学士課程教育におけるイノベーションを担当する副学長補佐のポジションが設置されたという説明もあった。

3.6 オハイオ州立大学図書館

「学士課程学生による研究」に対する支援は、

第1表 インタビュー調査の回答者・手段・実施日／回答日

図書館名	回答者 (回答時点での職位・職名)	手段	実施日／回答日
カリフォルニア大学バークレー校 図書館	Elizabeth Dupuis 氏 (副館長)	訪問	2015年5月4日 (30分)
ニューヨーク州立大学バッファロー校 図書館	Margaret R. Wells 氏 (Associate Librarian, 管理部門担当副館長室) Cynthia A. Tysick 氏 (Associate Librarian)	訪問	2015年5月7日 (1時間)
プリンストン大学図書館	Mary W. George 氏 (Senior Reference Librarian)	メール	2015年3月24日
ルイビル大学図書館	Anna Marie Johnson 氏 (レファレンス・情報リ テラシー部門長)	メール	2015年3月27日
トロント大学図書館	Heather Buchansky 氏 (Student Engagement Librarian)	メール	2015年4月18日
オハイオ州立大学図書館	Elizabeth L. Black 氏 (Undergraduate Engagement Librarian)	メール	2015年4月29日

第2表 質問紙調査の回答時点でのサービス*1の実施状況

図書館名	①	②	③	④	⑤	⑥
カリフォルニア大学バークレー校図書館	○	○	○	○	○	○
ニューヨーク州立大学バッファロー校図書館	○	○	○	○	×	○
プリンストン大学図書館	○	△*2	×	×	×	×
ルイビル大学図書館	○	○	×	△*3	×	×
トロント大学図書館	○	○	×	○	○	×*4
オハイオ州立大学図書館	○	○	○	○	○	×

*1 ① 学士課程学生による研究を促進する授業に対する支援

② オナーズ・プログラムまたはオナーズ学生に対する支援

③ 学士課程学生研究プログラムに対する支援

④ 学士課程学生による研究成果の発表会への関与

⑤ 学士課程学生の研究論文誌への関与

⑥ 図書館資源を活用した学士課程学生による研究成果の表彰制度の設置

*2 オナーズ・プログラムは存在しないが、同等の制度があるという回答があった。

*3 研究発表会への関与はしていないが、参加学生に対する支援は行っているとの回答があった。

*4 表彰制度の設置を検討中との回答があり、その後、2015年に開始された。

図書館の戦略計画(2011-2016年)の重点項目のなかで扱われているという回答があった。戦略計画文書の「研究とイノベーション(Research & Innovation)」の項目で触れられており、学士課程学生による研究を担当する部署との連携についても述べられている¹²⁾。

また、学士課程教育に関する戦略計画(2012-2017年)では、「学士課程学生による研究」が重点項目「研究とイノベーション」で中心的に取り上げられている¹³⁾。さらに、回答時には就任が決定したばかりであった新しい学長が、教育・学習の分野を大学全体のなかで重視しているという説明もあった。

4. まとめ

本研究の結果より、全ての回答館において、「学士課程学生による研究」に対する支援が、図書館の重要なサービスの1つとして位置づけられていることが分かった。また、いくつかの館では、図書館の戦略計画のなかでそれが明示的に表されていた。

ほとんどの回答館では、「学士課程学生による研究」の促進が大学全体における重要事項の1つとして扱われていた。そして、それが学長等による学士課程教育の充実の方針を背景としている場合もあった。

大学図書館は大学全体の使命や戦略等を意識して、それに沿うような形で「学士課程学生による研究」に対する支援を実施していると言えるだろう。

注・引用文献

- 1) 本研究では、undergraduate research を「学士課程学生による研究」と訳している。
- 2) たとえば、Linn, Marcia C., et al. Undergraduate research experiences: impacts and opportunities. *Science*. 2015, vol. 347, no. 6222, 1261757.
- 3) The Boyer Commission on Educating Undergraduates in the Research University. *Reinventing Undergraduate Education: A Blueprint for America's Research Universities*. 1998, 46p.

- 4) Hu, Shouping, et al. *Reinventing Undergraduate Education: Engaging College Students in Research and Creative Activities*. Jossey-Bass, 2008, 103p.
- 5) "About CUR". Council on Undergraduate Research. http://www.cur.org/about_cur/, (accessed 2016-10-10). 日本語訳は、中井俊樹. 学士課程の学生に研究体験は必要か: 国際的動向と論点整理. *名古屋高等教育研究*. 2011, no.11, p.171-190. による。
- 6) 新見慎子. 北米の研究大学図書館が実施する学士課程学生による研究に対する支援の実態調査. 第63回日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2015, p.41-44.
- 7) 研究発表会への関与は行っていないが、研究発表会に参加する学士課程学生に対する支援は実施しているところも6館あった。
- 8) 研究論文誌への関与は行っていないが、学士課程学生による研究成果を機関リポジトリに掲載しているという回答が自由記述において複数館よりあった。
- 9) ニューヨーク州立大学システム全体の一般教育プログラムの変更を受け、2016年秋入学者より、バッファロー校でも一般教育要件としてキャップストーン科目が全ての学士課程学生に課される。"General Education Requirements: The UB Curriculum". University at Buffalo, The State University of New York. <http://undergrad-catalog.buffalo.edu/policies/degree/ubcurriculum.html>, (accessed 2016-10-10).
- 10) "About Princeton: Overview". Princeton University. <http://www.princeton.edu/main/about/>, (accessed 2016-10-10).
- 11) "Strategic Plan 2013-2018". University of Toronto Libraries. <http://onesearch.library.utoronto.ca/strategic-plan/strategic-plan-2013-2018>, (accessed 2016-10-10).
- 12) The Ohio State University Libraries Strategic Plan 2011-2016. <http://library.osu.edu/documents/strategic-plan/OSU-Libraries-Strategic-Plan-2011-2016.pdf>, (accessed 2016-10-10).
- 13) Strategic Plan: The Office of Undergraduate Education. <http://oaa.osu.edu/assets/files/strategic-planning/2012-Strategic-Plans/Support%20Unit/UnderGrad.pdf>, (accessed 2016-10-10).